



### 研究背景

HV・EVの普及



- メリット:
- 環境に優しい
  - 走行音が静か

しかし



相対的に  
ロードノイズが目立つように

### および振動環境の構築

従来

本研究

低騒音化 ⊗ 低振動化

静かで低刺激  
↓  
物足りなさを感じる



快音化 ⊗ 快振化

適切な刺激を提供  
↓  
快適な運転環境



### 研究内容

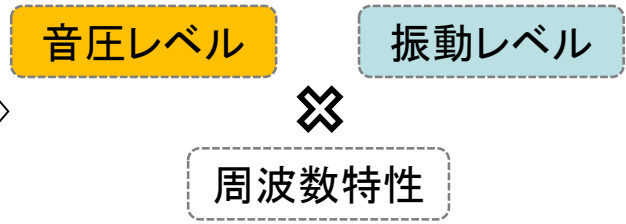
快適な運転感覚の把握

主観評価や客観評価により  
各評価尺度との関連を明確化

- |            |       |
|------------|-------|
| 主観評価:      | 評価尺度: |
| ○一対比較法     | ○走行感  |
| ○VAS評価     | ○高級感  |
|            | ○集中   |
| 客観評価:      | ○疲労   |
| ○唾液アミラーゼ計測 | ○眠気   |
| ○ハンドル操作のぶれ |       |

快適な運転感覚の構築

変更する物理パラメータの検討



運転感覚推定モデルの構築

モデルの検証

モデルを基に構造変更を行い  
モデルの妥当性を検証

モデルよりパラメータの決定

パラメータを基に構造変更

構造変更前後での評価比較